科　目 コード	40013	授業 科目	看護大学ゼミナールⅢ (OPCN Seminar Ⅲ)	担当 教員	○山本敬子　佐久川政吉 栗原幸子　田場由紀 実務経験：あり

開講年次	3年次 前期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	演　習
選択必修	必　修	時間数	30時間				

履修条件		
	前提科目	なし
	その他	なし

授業概要	看護大学ゼミナールⅡに引き続き、現在の看護に関わる課題を見つけ看護方法を改善するために、看護用具の発明や改善、看護介入。及び看護システムに関わる改善・工夫など、学生自ら主体的に創造的にその課題を克服する能力を獲得できるように学修する。
到達目標	1.看護に関連した課題についてブレーンストーミングを通して仮説を抽出できる。 2.１の課題の仮説について、文献検討から課題を見出しその根拠を説明できる。 3.２の課題に対する解決策について、ブレーンストーミングを通して、自由に発想し創造的に解決策を見出す。 4.主体的かつ建設的態度でグループワークに参加できる。 5.自分と異なる意見に対してアサーティブな対応がとれる。 6.効果的なプレゼンテーションができる。 7.問題・課題解決する上で論理的思考、創造的思考の活用の必要性がわかる。

授業回数	授　業　内　容　及　び　計　画	事前・事後学習（学習課題）	担当者名	授業形態
第1・2回	演習の進め方、問題解決に必要な創造的思考の理解、ブレーンストーミングによる課題の抽出)	初回時に提示	山　本 佐久川 栗　原 田　場	演　習
第3～7回	課題の明確化と解決法の検討 (文献検討・グループ討議)			
第8・9回、	中間報告			
第10～13回	解決法の検討(文献検討・グループ討議)			
第14～15回	プレゼンテーション、振り返り			

テキスト	なし
参考文献	取り組む課題によって、適宜紹介する。
他科目との関連	これまでの講義・演習・実習すべての科目、ならびに個人的経験等と関連する。
成績評価の方法	授業への参加（30%）、プレゼンテーション（40%）、報告資料（30%）
学習相談・学習体制	オフィースアワー（教員と学生が気軽に話せる場所と機会）を設ける。
学習指導法の工夫	少人数授業
授業改善の特記事項	オフィースアワーで得られる学習ニーズは、メールや会議等を通して全学的な共有を図る。
備　考	学生の自主性を尊重する科目である。 少人数でのグループワークを中心に行なう。 学生は学習時間を確保できるように、アルバイトやサークル等の活動時間を調整する。

科　目 コード		授業 科目	島嶼国際保健看護 (Insularity and Global Health Nursing)	担当 教員	○佐久川政吉　知念真樹 実務経験：あり

開講年次	4年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目 (保健師課程・看護師課程)	授業 形態	講義
選択必修	必　修	時間数	30時間				

履修条件		
	前提科目	島嶼国際保健看護実習
	その他	なし

授業概要	グローバル化により促進される人口移動や生活文化の変容に焦点をあて、環境と健康との相互作用と看護の役割を学修する。人口の流出入や生活文化の変容やおだやかな島嶼性が人々の健康生活に与える影響、または国内で暮らす外国人の健康生活に地域（地域生活または地域文化）が与える影響を学び、環境と健康とのダイナミックな相互作用を捉える視点を学修する。
到達目標	1. 島嶼を取り巻く視点や概念、地理的・歴史的・文化的特性を理解できる 2. 島嶼の環境と人々の健康・暮らしを理解し、その健康上の課題を理解できる 3. 島嶼で求められる看護職者の役割の現状と可能性について述べることができる 4. 看護においてグローカルな視点をもつことの重要性が理解できる 5. 健康に関連する国際的援助機関の役割と活動の実際を理解できる 6. 世界の各地域における保健医療看護の現状と課題を理解できる 7. 看護における異文化理解の重要性を述べることができる 8. 国内に滞在・在住する外国人の背景と健康課題を理解し、看護職者の役割を考えることができる

授業回数	授　業　内　容　及　び　計　画	事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態
第 1 回	オリエンテーション グローカルな視点と島嶼保健看護、島嶼保健看護の魅力と必要性	テキスト 1. pp. 1-41	佐久川	講　義
第 2 回	島嶼とは？島嶼保健看護とは？：定義、概念、地理的特性、歴史・文化の多様性等	テキスト 1. pp. 56-73 参考文献 1. pp. 1-10	〃	
第 3 回	島嶼の環境と人々の健康・暮らし、ネットワーク（相互扶助）	テキスト 1. pp. 74-107	〃	
第 4 回	沖縄県島嶼の保健医療福祉の体制、地域包括ケアシステム・地域共生社会の実現に向けて	テキスト 1. pp. 42-73	〃	
第 5 回	島嶼における看護職者の役割の実際（診療所・役場の業務、訪問、協働連携等）	テキスト 1. pp. 108-145	〃	
第 6 回	島嶼における健康課題とその支援方法	テキスト 1. pp. 146-207	〃	
第 7 回	先駆的な事例からみるこれからの島嶼保健看護の可能性	テキスト 1. pp. 208-224	〃	
第 8 回	海外（アジア・太平洋）の島嶼保健看護の現状と課題	講義の際に提示します	知　念	
第 9 回	国際保健看護の魅力	〃	〃	
第 10・11 回	国際保健看護の視点（国内・国外）	〃	〃	
第 12・13 回	日本の援助機関の役割	〃	〃	
第 14 回	世界の各地域における保健医療看護の現状と課題、途上国における国際保健看護の実際	〃	〃	
第 15 回	沖縄における在日外国人に対する国際保健看護の実際	〃	〃	
第 16 回	期末試験		佐久川 ・知念	

テキスト	1. 大湾明美（2021）島に学ぶ地域ケアー高齢者の豊かな人生を創る発想の転換，初版，オフィス・コオリノ． 2. 系統学看護学講座 専門分野Ⅰ看護学概論　基礎看護学［１］第 16 版　医学書院 3. 荒賀直子.後閑容子.　（最新刊）.　公衆衛生看護学.jp.　インターメディカル
参考文献	1. 嘉数啓（2017）島嶼学への誘いー沖縄からみる「島」の社会経済学，初版，岩波書店 2. 近藤麻理著（2018）：知って考えて実践する国際看護 第２版.　医学書院 3. 大橋一友、岩澤和子（編集）(2018)：国際化と看護 日本と世界で実践するグローバルな看護をめざして．メディカ出版 4. 森淑江、山田智恵理、正木治恵（編集）（2019）：国際看護．南江堂
他科目との関連	「島嶼国際保健看護実習」での学びを、本科目を通して統合する 本科目は保健師課程・看護師課程の読み重ね科目である
成績評価の方法	授業参加状況：20%、個人課題レポート点：80%（島嶼40%、国際40%）
学習相談・学習体制	授業での疑問等については、担当教員は随時対応する。島嶼保健看護については、原則、月曜と火曜の4･5限目を学生からの質問や相談等に対応するオフィスアワーとし、208研究室等で対応する。国際保健看護については、213研究室で対応する。
学習指導法の工夫	グループワークや訪問による少人数教育とする。
授業改善の特記事項	グループワークを導入し、学生の主体的な授業への参加を促す。
備　考	指定された日時までに授業で指定されたレポートを提出する。 ・本科目は、看護師課程「看護の統合と実践」及び保健師課程「公衆衛生看護活動展開論」「公衆衛生看護管理論」「疫学」の内容を含む

科　目 コード	40131	授業 科目	看護卒業研究 (Nursing Research and Evidence-Based Practices)	担当 教員	○教務委員長 助教以上の看護教員 実務経験：あり

開講年次	4年次 通年	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	演　習
選択必修	必　修	時間数	60時間				

履修条件		
	前提科目	看護統合実習を履修できること。
	その他	なし

授業概要	看護大学ゼミナールⅠ、Ⅱ、Ⅲでの学びを活かして関心のある看護上のテーマを設定し，看護統合実習に取り組む。実習での実践を科学的に振り返り、特に関心の深いテーマに関して、自己にふさわしい学習方法で知識や技術をさらに深め、その成果を報告書にまとめる。学習過程を通して、看護の意図的な取り組みの論理性、実践の正確な記述、結果の適切な分析や評価、及び論文の書き方について学修する。
到達目標	1. 統合実習での看護実践記録を正確に整理できる。 2. 実施した看護実践を科学的に考察し、論文を作成できる。 3. 上述した看護実践を要約し、事例検討会資料を作ることができる。 4. 事例検討会で発表できる。 5. 事例検討会に建設的に貢献できる。 6. 看護専門職者として必要な問題解決力(正しい課題認識・代替案の考案・相互に受け入れ可能な解決策の選択など)の基礎を習得できる。

授業回数	授　業　内　容　及　び　計　画	事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態
第1～15回 第16～30回	（新学期ガイダンスにて）概要の説明 <u>統合実習前（前期）</u> 1.これまでの学習の中から<u>看護実践上の課題</u>を探る。 2.研究成果の活用方法を学ぶ ・論文の探し方 ・論文の読み方 ・科学論文の書き方 ・Evidence based practice(EBP) ・グループ討議の技術 3.統合実習の準備 ・先行研究の検討により看護実践上の課題とその解決方法を明確にする。 ・EBP の実施、評価を含めた看護統合実習となるよう実習計画書を作成する。 <u>統合実習終了後（後期）</u> 1.EBP に基づいた自身の看護実践を正確に記述する。 2.自身の看護実践を文献を用いて考察する。 3.一連の取り組みを論文にまとめ、事例検討会（学習成果発表会）で報告・討議する。 4.討議の結果を含めて、論文を完成させる。	新学期ガイダンス時に日程と共に提示する。	教務委員長 助教以上の看護教員	講 義 および 演 習

テキスト	随時提示

参考文献	澤田昭夫「論文のレトリック」講談社学術文庫 604 澤田昭夫「論文の書き方」講談社学術文庫 153 高橋誠「会議の進め方」第 2 版、日経文庫、2008 八幡ひろし「会議の技術」PHP 文庫、2009
他科目との関連	看護統合実習
成績評価の方法	授業への参画、論文・資料等の成果物、事例検討会への参画等を総合的に判断する。
学習相談・学習体制	各担当教員が授業開始前にオフィスアワーを提示する。
学習指導法の工夫	少人数授業
授業改善の特記事項	開講年度に提示
備　考	看護系教員が少人数の学生を担当する。原則として、看護統合実習と同じ教員が担当する。

科　目 コード	40142	授業 科目	看護統合実習 (Integrated Nursing Practicum)	担当 教員	○教務委員長 助教以上の看護教員 実務経験：あり

開講年次	4年次 後期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	実　習
選択必修	必　修	時間数	90時間				

履修条件	前提科目	看護専門職論Ⅱ　専門全領域の保健看護実習
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに 11 月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。
授業概要		看護専門職論Ⅱ及び既習の看護の概念とアセスメント能力、及び実践力を統合、拡大、磨くための機会を提供する。施設または地域の場での集中的かつ自立的な臨地実践経験を通して、個人及び集団へのヘルスケアニーズに焦点を当て、先行研究の成果を活用した看護実践を通して根拠に基づいた看護実践(EBN)について学修する。
到達目標		下記の実習目標に沿って定められた実習到達目標を別途提示する。 1. 看護専門職者としての倫理観と責任感を養う。 2. 看護の対象のおかれた状況を分析・統合し、科学的根拠に基づいた問題解決能力を養う。 3. 看護を必要とする人々と適切な関係を築き、対象のニーズに基づいた看護を実践できる能力を養う。 4. 看護専門職者としての保健医療福祉等の関連職種間の連携・調整に必要な協働能力を養う。 5. 実践の中で自己の課題に気づき、解決に向けて主体的な学習態度を養う。

授業回数	授　業　内　容　及　び　計　画	指導教員
10日間	（新学期ガイダンスにて）概要の説明 臨地実習 ・実習配置の決定方法 1）取り組みたい課題および実習したい専門領域・実習施設について学生の希望を調査する。 2）学生の希望した複数の実習場を考慮して、各学生、各教員ともに不公平がないように、教務委員会で配置領域を決定する。 ・実習の進め方 1）学事歴に決められた期間に90時間の実習を行う。 2）4月中に実習先、担当教員を決定する。 ・希望調査を行い、希望調査にもとづき、配置領域を決定する。 ・各専領域で学生毎の担当教員と実習施設を決定する。 3）担当教員は、実習計画書の提出に間に合うよう、学生の計画に基づいて、学生とともに実習施設と調整し、実習施設(病棟)、時期を決定する。教員は実習施設に配慮しつつ、準備の段階から学生の自主的行動を促すように関わる。 4）7月中に、学生は担当教員と相談の上、実習計画を立てる。所定の様式にそって実習計画書を作成、計画書を学務課に提出する。 5）学生は計画に従って担当教員および施設側の実習指導者と連携しながら、自立して実習を行う。 6）毎日の実習目標、計画、実施、評価を記載した毎日の実習記録と全体サマリーを作成する。 7）シラバスの到達目標に照らしてレポートを作成する。	教務委員長 助教以上の看護教員
テキスト	看護統合実習の手引き	
参考文献	ガイダンス時に提示予定	

他科目との関連	看護卒業研究の前提となる科目である。これらの科目で要求される報告書のテーマとなる課題を特定すること。
成績評価の方法	実習参加状況、実習態度、学生の計画性、実習目標の到達度、レポート等(毎日の実習記録と全体サマリーを含む)の提出物、実習施設の指導責任者、実習指導担当教員の情報、評価等を参考に、科目責任者が総合的に評価する。
学習相談・学習体制	各担当教員が授業開始前にオフィスアワーを提示する。
学習指導法の工夫	少人数授業
授業改善の特記事項	開講年度に提示
備　考	看護系教員が少人数の学生を担当する。原則として、看護卒業研究と同じ教員が担当する。

科　目 コード	31126	授業 科目	看護専門職論Ⅱ （Professional Nursing Ⅱ）	担当 教員	○宮里智子 実務経験：あり

開講年次	4年次 後期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目 （保健師課程・看護師課程）	授業 形態	講　義
選択必修	必　修	時間数	15時間				

履修条件		
	前提科目	看護統合実習
	その他	なし

授業概要	これまで学修した知識を統合し、専門職業上の問題を探求する。また、社会のニーズに照らして専門職業として看護を捉え、看護の発展に影響する最近の動向について理解を求める。さらに、学生から実務者役割への移行期の課題、並びに看護専門職の法的、社会的側面にも焦点を当て学修する。
到達目標	1. 看護実践を支える看護管理の基本的な考え方について理解できる。 2. これまでの学習過程を客観視して自己の看護観の形成過程を辿り記述できる。 3. 記述された看護実践から、看護の質を左右している看護者の判断状況と行動の内容を読み取り、課題を記述できる。 4. 保健医療制度の動向をふまえ看護専門職に期待される役割について考察できる。

授業回数	授　業　内　容　及　び　計　画	事前・事後学習 （学習課題）	担当者名	授業形態
第１回	マネジメントに必要な基本知識 マネジメントプロセスとマネジメントサイクル 組織とマネジメント リーダーシップとマネジメント	配付資料	宮　里	講義
第２回	看護実践方法論の骨子について	配布資料	〃	
第３回	看護実践から論理を取り出す（１） 看護実践の構造に沿った看護実践の記述 臨地実習で印象に残った看護場面を記述する	配付資料	〃	
第４回	看護実践から論理を取り出す（２） 自己の看護実践から看護の論理を取り出す	配付資料	〃	
第５回	看護実践から論理を取り出す（３） 記述された看護実践から看護者の判断状況と行動の内容を取り出す① 看護者の判断と行動の特徴を記述する② 看護者の判断と行動の特徴からみえた課題を記述する③	配付資料	〃	
第６回	保健医療制度の動向と看護専門職に期待される役割（１） 保健医療制度の動向 看護専門職の役割	配付資料	〃	

第７回 第８回	保健医療制度の動向と看護専門職に期待される役割（２） 　看護専門職の役割を果たすうえでの自己の課題 保健医療制度の動向と看護専門職に期待される役割（３） 　看護専門職の役割を果たすうえでの看護の課題	pp64-72 配付資料	〃 〃	
テキスト	資料を配付する。			
参考文献	1. 上泉和子.(2018).系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践①　看護管理､医学書院.			
他科目との関連	看護専門職論Ⅰで学んだ看護の概念と関連付けながら学ぶ。 本科目は保健師課程・看護師課程の読み重ね科目である。			
成績評価の方法	小テスト（授業時）20%、レポート80%とします。			
学習相談・学習体制	毎週月曜日、13：00～15：00をオフィスアワーとし、科目責任者が対応します。			
学習指導法の工夫	多様なメディアの活用			
授業改善の特記事項	グループ活動を取り入れ授業を活性化し、チームで協働する姿勢を育てる			
備　考	・本科目は原則として1コマあたり最低90分ずつの予習と復習が必要です。 ・本科目は、看護師課程「看護の統合と実践」及び保健師課程「公衆衛生看護活動展開論」の内容を含む			